



白新中学校の教育活動にご理解・ご協力いただき、ありがとうございました。7月と12月に実施した学校評価アンケートでは、保護者全員の皆様からご協力いただきました。学校評価アンケートをもとに、今年度の教育活動を振り返り、来年度の教育活動に繋げていきたいと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

【令和5年度 後期学校評価アンケート結果(12月)について】

重点1 資質・能力を育む深い学びを目指した授業の充実

生徒アンケートの「(教科)が好き」の割合を重点1の一つの指標としています。表1は、生徒アンケート7月と12月の結果です。

＜表1＞

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施	12月実施
	1・2の合計の割合 (そのうち1の割合)	1・2の合計の割合 (そのうち1の割合)
①〇〇の教科は好きですか	70% (40%) ※9教科の平均	72% (40%) ※9教科の平均
②〇〇の教科は分かる。	89% (52%) ※9教科の平均	89% (51%) ※9教科の平均

子どもたちの資質・能力を高めるために、全教職員が自己の授業改善に向けて取り組んでいます。数値に大きな変化はみられませんが、前期以上に生徒たちが生き生きと授業に取り組む姿が多くみられました。



一方で、学びを深めていく姿にはまだまだ課題があります。互いの考えや意見を受け入れるだけでなく、その違いを明らかにしたり、共通点を見出したり、新たな考えを創り出したりする力を高めていく必要があります。そのための手だてとして、白新中学校がこれまで継続的に取り組んでいる「ファシリテーション」は非常に有効であるとともに、令和の時代において改めて注目されている手法です。次年度は、ファシリテーションを効果的に学ぶことができる「ファシリテーションプログラム」を実施し、子どもたちが学びを深めるスキルを高めていきます。

重点2 リーダー経験を中心に自己有用感の向上を目指した活動の充実

前期学校評価を踏まえ、生徒の「自己有用感」を育むために、生徒の成長を具体的に価値付ける「ポジティブフィードバック」に取り組んできました。表2は、重点2に関わる生徒アンケートの7月と12月の結果です。

<表2>

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合(そのうち1の割合)	12月実施 1・2の合計の割合(そのうち1の割合)
①自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりするようになった。	67% (23%)	67% (25%)
②行事や学級、生徒会などの活動でリーダーと協力して活動するようになった。	82% (39%)	82% (49%)
③他の人が努力していることに、アドバイスをしたり、一緒に活動したり励ましたりするようになった。	93% (45%)	91% (57%)
④学習や生活において、自分で考え課題を解決したり、自分で判断して行動したりしています。	84% (37%)	89% (38%)
⑤7チャレンジで学んだことを日常の生活の授業や学校生活の中にかかしています。	85% (33%)	85% (33%)

7月と12月の結果を比較してみると、肯定的な評価(1・2の合計)に大きな変化は見られませんが、「1あてはまる」の数値が上がりました。生徒の振る舞いに対して、ポジティブフィードバックを意識して取り組んだことに成果があったと考えます。生徒の具体的な姿をもとに肯定的な価値付けを行うことで、「認めてくれた」「褒めてくれた」「頑張りを認めてくれる」という思いが、「信じてもらっている」という安心感や「次も頑張りたい」という前向きな姿に繋がったと考えます。また、行事(体育祭・演劇発表会・合唱発表会)の後に、保護者の皆様から生徒の頑張りをフィードバックしていただきました。保護者や地域の皆様からの温かいメッセージに生徒たちは大変喜んで見られました。このように、学校と家庭、地域が連携して、子どもたちを育てる環境が何より重要だということに気づかされました。ポジティブフィードバックを今後も継続して取り組んでいきたいと思えます。また、ポジティブフィードバックのように過去を振り返るメッセージだけでなく、「これからどうすべきか」という未来を見据えた考え方を引き出す「フィードフォワード」も重要だと考えます。フィードフォワード(未来)とポジティブフィードバック(過去)の両者を大切にしながら、子どもたちと関わっていきます。

重点3 自己理解につながる多様な価値観に触れる機会の充実

「地域と関わることを軸に自分の生き方を見つめ直す総合学習」の充実に取り組んでいます。具体的には、2月の職場体験や地域課題解決学習等、多様な価値観に触れる機会を設定しています。表3は、重点3に関わる生徒アンケートの7月と12月の結果です。

<表3>

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施 1・2の合計の割合(そのうち1の割合)	12月実施 1・2の合計の割合(そのうち1の割合)
①自分にはよいところがあります。	67% (23%)	78% (39%)
②地域や学校で先生以外の大人から褒められたり、認められたりして、うれしいと感じることがよくあります。	82% (39%)	80% (46%)
③地域のこと(自然・歴史・産業など)にふれたり、調べたりする学習は好きです。	93% (45%)	63% (28%)
④地域の大人から話やアドバイスを聞いて、分かったり、できたりすることがよくあります。	84% (37%)	72% (30%)

アンケート結果から、①②の項目の数値が向上しました。これは重点2で取り組んだ「ポジティブフィードバック」の取組や総合学習で保護者や地域の方からの関わりによって高まったと捉えています。現在、1年生は職場体験、2年生は修学旅行、3年生は卒業発表会に向けて、様々な方と関わる中で学びを深めています。重点2と同様に、学校と家庭、地域が連携し、子どもたちの学びを支えていくことは非常に重要です。一方で、③④の項目の数値は大きく低下しました。地域のことを学ぶ活動や地域の方と触れ合う機会は多く設定できているのにも関わらず、子どもたちの学びの自覚が下がっているのは、「振り返り」に課題があることを示しています。自分の学びを振り返ることで、子どもたちは学びを自覚していきます。毎週水曜日の帰りの会の時間に、学びを振り返る「未来への足跡タイム」を設定しています。この時間を有効に活用し、学びを効果的に振り返ることができるようにしていきます。具体的には、自分の学びをポートフォリオとして積み重ね、自分の生き方を見つめ直すツールとして活用していきたいと考えています。

重点4 個別の課題に応じた指導・支援の充実

前期学校評価でもお伝えしましたが、生徒一人一人が安全・安心に学校生活を送ることができる学校を目指し、次の4点に力を入れて取り組みました。

- 教育相談の充実
- 睡眠教育による生活習慣改善（調査・支援）
- ケース会議を核とした課題把握と役割分担を明確にした指導・支援体制の強化
- 校内適応指導教室や保健室の活用ルールを明確にするとともに、関係機関との連携

表4は、重点4に関わる7月と12月のアンケートの結果です。

<表4>

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

生徒アンケートの項目	7月実施	12月実施
	1・2の合計の割合（そのうち1の割合）	1・2の合計の割合（そのうち1の割合）
①困ったことがあれば誰かに相談することができる。	92%（57%）	92%（60%）
②学校の中に居心地のよい場所がある。	90%（51%）	94%（61%）

アンケート結果から、12月の数値が向上しました。「新潟市いじめアンケート」や「教育相談アンケート」等を活用しながら、多面的に子どもの悩みや困り感に寄り添いながら取り組めた成果であると捉えています。これまで以上に、子どもたちが安全・安心に学校生活を送れるように取り組んでいきます。

4つの資質・能力について

資質・能力を「生徒」「教員」「保護者」の三者にアンケートを実施し、数値からその意識の違いを分析し、今後の指導・支援に繋げていきたいと考えています。次の表5は三者アンケートの結果です。

<表5 資質・能力に関わるアンケート結果>

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

資質能力	生徒の項目		教員の項目	保護者の項目	前期 7月 後期 12月	生徒 「1」 「2」 の合計	教員 「1」 「2」 の合計	保護者 「1」 「2」 の合計
	自ら考え判断する	1	何かを選ぶ時や決める時に、最後は自分が選んだり決めたりするようになった。	生徒が何かを選ぶ時や決める時に、生徒が自己決定するように働きかけている。	何かを選ぶ時や決める時に、お子さんに自分なりの理由や根拠を確認した上で選んだり決めたりさせています。	7月 12月	91 96	95 95
	2	何かを決める時、なんとなくではなく理由や根拠をもとにして考えるようになった。	生徒が何かを決める時、なんとなくではなく、理由や根拠をもとにして考えるように働きかけている。	お子さんは、何かを選ぶ時や決める時に理由や根拠をもとに、最後は自分で選んだり決めたりしていますか。	7月 12月	85 85	89 100	86 92
自分の思いを表現する	3	自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりするようになった。	生徒が自分の考えを積極的に他者に伝えたり、学級や学年に発表したりする機会を設定している。	お子さんの話を遮らずに、最後まで聞くようにしています。	7月 12月	67 67	79 89	86 94
	4	自分の思いや考えていることを表現しやすい学級になってきた。	生徒が自分の思いや考えていることを安心して表現できる学級(学年)づくりに取り組んでいる。	お子さんは、家庭で自分がやりたいことやがんばっていることを話していますか。	7月 12月	84 86	89 89	81 81
認め合い励まし合う	5	行事や学級、生徒会などの活動でリーダーと協力して活動するようになった。	行事や学級、生徒会などの活動場面で、リーダーとフォロワーについて働きかけ、よりよい関係づくりに取り組んでいる。	お子さんに、様々な人のいいところやがんばっていることを話すようにしています。	7月 12月	82 87	95 100	83 89
	6	他の人が努力していることに、アドバイスをしたり一緒に活動したり励ましたりするようにになった。	生徒が互いに高め合う(友達が努力していることにアドバイスをしたり、一緒に活動したり、励ましたりするなど)ように働きかけている。	お子さんは、他の生徒のいいところやがんばっている様子を話していますか。	7月 12月	93 91	95 95	76 77
挑戦しやり抜く	7	行事や学級、生徒会などの活動で、自分の役割を責任もって最後まで取り組むようになった。	生徒が行事や学級、生徒会などの活動で、自分の役割を責任もって最後まで取り組むように働きかけている。	お子さんが努力していることを見つけて伝えていきます。	7月 12月	92 93	95 100	88 91
	8	難しい目標や苦手なこと、うまくいかなかったことを、できるように努力するようになった。	生徒が目標や苦手なこと、うまくいかなかったこと等に挑戦・努力しているプロセスを具体的に価値付けている。	お子さんは、難しい目標や苦手なこと、うまくいかなかったことを、できるように努力していますか。	7月 12月	85 88	79 84	67 78
自己実現に向けて努力する	9	目標に向けて続けていることがある。	生徒が目標をもって挑戦するように働きかけている。	ご自身が生活・趣味・仕事など、目標をもって努力していることがあります。	7月 12月	80 80	84 100	79 60
	10	このようになりたいという目標をもっていたり、あこがれやモデルとなる人がいたりする。	生徒がこのようになりたいという目標をもてるように、あこがれやモデルとなる人との出会いを設定している。	お子さんは、このようになりたいという目標をもっていたり、あこがれやモデルとなる人がいたりしますか。	7月 12月	73 73	53 63	57 59
	11	7チャレンジで学んだことを日常の生活の授業や学校生活の中にかかしています。	すみません。評価項目に入れ忘れしました。後期は入れます。		7月 12月	85 84	95	

7月と12月の数値や日常の生徒の姿から、全体的に資質・能力が高まっています。子どもたち一人一人の成長が様々な場面で見られ、教職員にとって嬉しい場面がたくさんあります。子どもたちがさらに成長していける環境を学校と家庭、地域で連携して今後も取り組んでいければと思います。

表5の項目3の数値は、教員と保護者の数値が高いにも関わらず、子どもたちの数値は高まりませんでした。「自らの思いを表現する」の資質・能力に課題があることが分かります。これからの社会は、より多様な他者との協働が求められると言われていています。多様な他者とよりよい関係を築き、同じ目標に向けて協働していくためには「他者理解」は欠かせません。他者を深く理解していくことで、相手のことを考えた表現が可能になります。白新中学校で求める「自らの思いを表現する」は、自分の考えを一方向的に伝えるものでなく、他者を理解し、その上で工夫して伝える姿です。このような姿を目指していくために、次年度は「他者理解」を子どもたちにより醸成していきたいと考えています。そのための手だてとなるものが、白新中の強みの一つである「ファシリテーション」です。重点1でも述べましたが、次年度はファシリテーションに力を入れ、他者理解を深め、表現の質を高めていきたいと考えています。

<情報発信についてのアンケート結果>

<表6>

1「あてはまる」 2「ややあてはまる」 3「あまりあてはまらない」 4「あてはまらない」

項目	7月実施 1・2の合計の割合	12月実施 1・2の合計の割合
学校だより（白中通信）、学年だより、学級だよりはよく見ます。	86%	88%
お子さんや学校の様子を見る（知る）機会は十分あります。	67%	75%
学校のホームページやSNS（Facebook・Instagram・Twitterなど）を見ています。	52%	50%

<保護者アンケートの自由記述より>

○学習指導に関わる内容について

質問内容	回答
テストの成績について、テスト終了後速やかに出していただけないでしょうか？テストから1ヶ月以上経ち忘れた頃に出されても、本人も親も振り返りようがありません。テストの結果を次につなげるためには、平均点と比べてどうであったのか、自分の立ち位置がどのくらいであったのか、終わった直後に成績を見ながら振り返る必要があると思います。お忙しいことは重々承知していますが、ご検討のほどよろしくお願いします。	ご意見ありがとうございます。テスト後の振り返りに繋がられるように、できるだけ早く正確にお伝えさせていただきます。
<授業の進め方について> 授業において、話し合い活動の取り組みが毎時間実際されていますが、話し合いに入る前の事前活動が足りず、話し合い活動に臨むこともあり、話し合い活動に苦手意識もつ生徒もいます。話し合い活動に入る前に十分生徒に考えさせる時間を確保してほしいと思います。	ご意見ありがとうございます。ねらいに応じて子どもたちが自分の考えをもてる時間をできるだけ保障するなど、適切に取り組んでいきます。
<清掃について> 現在白新中学校では、週2回の実施となっておりますが、学校の環境整備、生徒の情操向上の意味においても、回数を増やすべきだと思います。生徒が気持ち良く生活するため、校舎を大切にすることを育むために、ぜひ週、3回の清掃実施を要望します。	ご意見ありがとうございます。生徒が校舎を大切にすることを育むことは大切だと捉えています。一方で、放課後活動の時間を減らすことは難しい状況があります。週2回の清掃に気持ちを込めて取り組むように指導してまいります。ご理解ご協力をお願いいたします。

○進路指導に関わる内容について

質問内容	回答
お世話になっております。受験がウェブ出願になり、最初は不安だったのですが、進路指導での生徒への説明や保護者へ配布された資料がとても分かりやすく、落ち着いて準備を進めています。受験に向けて先生方のご負担も増えていると思います。どうぞお体にお気をつけてお過ごしください。	ありがとうございます。お子様の進路の実現に向けて保護者の皆様と連携していきたいと考えております。今後もよろしくお願ひいたします。
初めての受験なので今日みたいな授業参観後などに、出願の説明などの時間を設けて頂いたり、去年の様に進路指導の先生と生徒の時間を設けて欲しい。	ありがとうございます。今後も生徒と保護者の皆様がよりよい進路選択ができるように努めていきます。何かご不明なことやご心配なことがあれば、いつでも学級担任や進路担当にご相談ください。
先生方へお願いがあります。今後の受験の際、専願、推薦、その他の受験方法で、早々に高校が決まる生徒もいますが、私立以外に公立高校本命する受験の生徒もいますので、生徒に応じた配慮をよろしくお願い致します。	生徒全員が気持ちよく、全力で受験に臨めるように指導してまいります。何かご心配なことがあれば、いつでも学級担任や進路担当にご相談ください。

○日程に関する事、情報発信について

質問内容	回答
授業参観が金曜日以外にも行われると参観できるかもしれないのだが、と毎回残念に思う。	ご意見ありがとうございます。来年度は、できるだけ曜日に偏りのないように計画いたします。
PTA 行事や保護者懇談など、日程が確定したらなるべく早く教えていただけると、仕事の都合も合わせやすいです。	できるだけ早くお伝えしていきます。保護者懇談会等、事前に決まっているものについては年間行事計画をご確認ください。
E mail でそれぞれの先生方のお名前でメールが来る事が多く、後で検索する時に少し探しづらいので、例えば、安心メールを活用して、1カ所にまとめていただくと後で探しやすくなるのでご検討頂ければと思います。	お手数おかけしております。現在、新しいメールシステムの準備を進めております。見通しとして、令和6年4月からの運用を目指しています。
先生への連絡手段として、電話が主であるが、授業や生徒指導でなかなかコンタクトが取れないことがある。先生方への連絡手段としてメールを活用できると良い。	お子様の様子を詳しくお聞きしたいので、メールではなくお電話にさせていただいています。お手数おかけしますがどうぞよろしくお願ひいたします。
Instagram に一年生の様子ももっと載せてほしいです。	各学年がバランスよく発信できるように工夫していきます。

いただいたご意見を踏まえ、魅力ある学校を目指して今後も継続して取り組んでいきます。今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。

小野かさね先生が「文部科学大臣優秀教職員表彰 若手奨励賞」受賞

小野かさね先生が令和5年度新潟市教育委員会表彰の若手教職員等奨励賞に引き続き、「文部科学大臣優秀教職員表彰 若手奨励賞」を受賞しました。これまでの教育実践等が評価されるとともに、今後の研鑽を期待されての奨励賞です。皆さんと共に、受賞を喜びたいと思います。おめでとうございます。

